



体育通信【小中交流-與那城先生の授業】



小学校と中学校が交流し、児童の中学校への不安を取り除くことを目的として、中学校の先生が小学校で授業を行う取り組みを行っています。

2学期からは本格的に中学校の授業スタイルで学習を進めています。第三中学校の與那城先生とともに授業を計画し、一緒に授業を行っています。9月は、「跳び箱」「ハードル走」の学習をしています。



跳び箱の台上前転につながる「蛙倒立」
ゴールをイメージした準備運動です。

ハードルを踏み切る場所は、ハードルから近いところがいいのか、遠いところがいいのか、その理由は何かと、みんなで意見を出し合っていました。「足を前にのばして出したら、ハードルに当たるから遠い方がいいのではないか。」など意見が出ていました。また、クラスメイトの動きを見て、話すことを通して、自分の動きに気づき、考えながら体を動かしていました。意識して体を動かすことが体育では大切なことです。何

よりも、体を動かすことを楽しんでほしいです。

挑戦すること

国語辞典で「成功」の対義語を調べてみると、「失敗」と記されています。
「成功の反対は失敗」果たして、そうなのでしょうか。

小学校卒業まで約半年間です。これからも多くの行事があり、その都度、目標を定め、【考動】する日々を送ります。その中で、壁として立ちふさがるものに挑んでいくことが【挑戦】です。「失敗への恐れ」や「まちがうことへの不安」から【挑戦】できなかったり、【挑戦】しても上手くいかなかったりしてあきらめることがあるかもしれません。このような状態に陥ったときに、【成功】の反対は【挑戦しないこと】と考えるのは、どうでしょうか。

生涯 1300 以上の発明をしたと言われているアメリカの発明王トーマスエジソンの言葉を紹介します。

- ・私は失敗したことがない。上手くいかない！万通りの方法を見つけたのだ。
- ・私たちの最大の弱点はあきらめることにある。成功するのに最も確実な方法は、常にもう一回だけ試してみることだ。
- ・私は決して失望などしない。なぜならどんな失敗も新たな一歩となるからだ。
- ・失敗したわけではない。それを誤りだと言っはいけない。勉強したのだといたまえ。

学校の学習や行事の中で、なりたい自分を思いえがき、目標に向かって、粘り強く【挑戦】を重ねて、一人一人の成功を手にしてほしいです。

※ 【挑戦】の反対は【勝利】と読めるポスターを学年掲示板に貼っています。
学校にお越しの際、3F学年掲示板をご覧ください。

